

## すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	平成 30 年 2 月 9 日（金） 午後 6 時 30 分～7 時 40 分
○場 所	武蔵野市役所 4 1 1 会議室
○出席委員	榎田委員長、吉田副委員長、松田委員、藤野委員、鶴川委員、大杉委員
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長 他

### 1 開会

事務局より資料確認

### 2 議事

- (1) 平成28年度第2回及び29年度第1回委員会意見への対応状況
- (2) 平成30年度事業計画について

#### ※運営団体NPO法人いずみの会が入場

<平成28年度第2回及び29年度第1回委員会意見への対応状況、平成30年度事業計画について説明>

いずみの会より委員会意見への対応は資料1のとおり、また、事前質問についての回答は資料4のとおり説明がなされた。(省略)

#### 【いずみの会】

事業計画については、資料2のとおりなので、ポイントだけ話をしたい。4ページの「平成30年度に力を入れて取り組みたいこと」という欄だが、全体的にいい流れになってきているので、ほとんどが「引き続き努めていく」という表現になっている。

その中でも、ひろば、一時預かり、小規模保育の3事業の連携という点については、具体的に一緒にプログラムを組んだりといった取り組みを進めている。また、個人情報に関する研修も重ねて実施したい。スタッフの心身の健康に関して、安全指導やセルフケアの研修も行いたい。施設の安全な環境整備も当然進めていく。

ひろば事業については、非常勤スタッフ中心に構成されているが、利用者に継続的に対応していけるような体制を取りたい。父親の育児参加を促すプログラムは、昨年12月に初めて実施したが、保育士を講師として行ったところ反響が大きかったので、引き続き実施したい。また、ママ部活というものを最近始めた。いまは防災についての話し合いをお母さんたちがしていくということで、ママ防災部「もしものいずみちゃん」というものを始めた。お母さんたちの意見で、市の防災課の職員に施設に来てもらって防災の話をしてもらった。

一時預かりについては、引き続き安全で信頼される預かりを目指していきたい。そのた

めに、研修やミーティングを重ねていきたい。

小規模保育については、これまでのスタッフが2名資格を取り、保育士となった。4月から保育指針が変わるのに合わせて、理事の一人に講師になってもらい、近隣のまちの保育園吉祥寺と精華第一保育園と合同で研修を行った。新指針の中で大事にしていくものを学ぶことができた。30年度も保育について学びながらの実践を行いたい。保護者に対しては、個人面談や参観に対して大きな反響があった。保護者が変装して参観に来たので、子どもは自分の親と気が付かない。そういう状態で、自分の子どもの生の姿を見て、意外なところに気付いた、という声がその後の面談で聞かれた。さらに、親子であそぶ会というのを6月ごろに実施し、園に慣れてかみつきやひっかきが出てくる時期に、保護者同士のトラブルに発展する前に、お互いに知り合う、先生との関わりを見る、というプログラムを組んだ。その効果もあってか、保護者からは、お互い様です、と言ってもらっている。4月からは、アレルギー対応として卵除去を行うが、マニュアルを作ってスタッフで共有もしているので、事故のないように実施したい。すすくすく泉公園については、緑ボランティアとさらに連携を強め、外遊びの体験と、多世代交流や近隣施設との交流を深めていきたい。

次に、事業内容の欄だが、ポイントを絞って説明したい。小規模保育については、保育の質の向上ということで、29年度は「待ってみたら」というテーマで、エピソード記録を残し、それを見直している。保育者がどの子のことも肯定的な気持ちで見ているということがその子に伝わると、子どもが安心して自分を出せる。また、「間」が大切ということで、けんかだとすぐに止めるとか、早く手を出しすぎるスタッフもいたが、少し待つという姿勢ができてきた。30年度は「食」について知りたいというスタッフの声があるので、内部、外部研修を実施していきたい。また、キャリアアップという制度を利用しつつ、エキスパートを育てるような研修にももっていきたい。連携園との研修は30年度も実施する予定である。

一時預かり事業については、大きな変化があるわけではないが、すすくすく泉に預けて良かったと言われるよう、保護者との丁寧な確認を行いたい。スタッフの交代の際の的確な引継ぎということには特に注意をしている。利用の間隔が開いた子どもについては、前回の記録を参照して、保護者とのずれがないよう気を付けている。

ひろばについては、様々なニーズに合わせたプログラムや、地域を巻き込んだコンサートなども開催して、様々な人がすすくすく泉に関われるようにしたい。日常的には、自然体で利用できるような雰囲気づくりということで、様々な利用者を受け入れるために表面的なルールはなるべく作らず、個々に合わせた対応を心掛けている。ミーティングを重ねるなどして、どのスタッフでもうまく対応できるようにしていく。利用者に寄り添うための情報共有を大切にしており、対応したスタッフが一人で抱えるのではなく、サポートの方法を皆で考えている。日常の歌や手遊びには季節感を感じられるよう、変化を持たせながら楽しみを作っていく。初めての方もみんなを受け入れる空気感を大切にしており、利用者も参加者意識を持って、みんなで作るひろばを目指している。プログラムについては、社会貢献できるような活動をさらに進めていきたい。泉文庫は定期的な読み聞かせをボランティアの関わりのもと行っているが、絵本に触れる機会をたくさん作ろうと考えている。

子育て相談は、助産師による計測や栄養士による離乳食講座も人気がある。情報発信は、掲示コーナーのほか、個々のお母さんに必要な情報を提供していく。ボランティアは「葉っぱさん」という登録制のボランティアのほか、中高生のボランティアも希望があればいつでも受け入れている。公園の活用に関しても、デッキからそのまま出られるので、外遊びのきっかけづくりとして、デッキ側に公園にいま咲いている花の紹介をしたり、泥んこ遊びの良さを漫画にして貼ったりしている。それ以外にも、預け合いとか、「待ってみましょう」とか、様々なテーマで、スタッフ自作の漫画を貼る試みを始めた。

3事業の関わりはどんどん増えており、保育の遊び場としてひろばがあったり、一時預かりの子が保育の方に行ったりということは日常的にある。引き続き実施していきたい。

地域との関わりとして、collabono（こらぼの）コミセン親子ひろばについては、中町集会所で実施しているが、引き続き30年度も地域のボランティアなどが参加しやすい形で実施したい。

#### <質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

##### 【委員】

すすくすく泉公園で、他施設の子どもとの交流をという話があったが、他の保育施設でも園庭のないところもあり、公園が混雑しているとも聞く。混雑の緩和などの必要性があるのか。また、様々な防災の活動をしているということだが、さらに組織として今後危機管理として取り組むべき課題があるのかを教えてください。

##### 【いずみの会】

公園については、市の子ども育成課が主催した保育の地域連絡会において、近隣保育園との公園利用における連携という内容で15分程度の発表もしたが、誰でも公園に来て遊んでいい、おもちゃも自由に使っていい、ごみは自分たちで持ち帰ってください、といったルールで行っている。すすくすく泉公園自体は広いので、混雑でトラブルになることはあまりない。午前中は違う公園にも行っているが、各園でも、特定の公園に集中しないようにしているように思う。すすくすく泉公園については、猫も来るので、砂場にシートが敷かれているが、穴が開いてしまっている。市の方針では、シートを取り除いていくということだが、やはり子どもが衛生的に使えるようにシートが欲しいということで、市役所の緑のまち推進課と相談している。

危機管理について一番心配しているのは不審者対応だが、利用者も入れて定期的に訓練をしている。ネットランチャーを入れたり、合言葉を作ったりと色々工夫はしており、警察に来てもらって講習も受けたが、30年度にも、もう一度来てもらって、見直しをしていこうと計画している。

##### 【委員】

一時預かりについては、スタッフを配置しても予約が直前にキャンセルになるということが、かなり多いのか。

##### 【いずみの会】

かなり多い。特にこの時期は体調を崩す子どもも多い。

**【委員】**

予約システムを見直すということだが、具体的にはどのようにするのか。

**【いずみの会】**

予約受付の専用電話番号を設定して、キャンセルにも留守番電話で対応することと、いまは予約時間を過ぎてしまったらキャンセル料を全額としているが、直前の電話が多いので、1時間くらい前までに電話をもらえるようにしよう、ということを考えている。4月から実施したいので、現在検討を進めている。

**【委員】**

予約の受け付けやキャンセルについて、ウェブでの対応ということは検討しているか。また、危機管理に関して、災害時の備えや学びなどで、進まない点、バックアップを必要とする点があれば教えてもらいたい。

**【いずみの会】**

ウェブ対応については、スタッフからも利用者からも意見としては出ているが、システムをうまく構築できるか、スタッフ誰でもが対応できるか、といった点で難しい。また、電話で受け付けることによって、利用者から色々と事情を聞ける良さもあると考えている。

災害への備えについては、散歩のときに発災したら、うまく連絡を取れるか、移動ができるか、ということが分からないので、その状態でどのように子どもの安全を確保すれば良いのかが課題である。火災が起こった際に、すすくく泉公園や井之頭小学校からも逃げる必要があるかもしれないが、その場合にスタッフ5人で10人の子どもをどのように連れて行くのか、高齢のスタッフもいる中、おんぶと抱っこで行けるのか、といった懸念もある。また、病院に連れて行く必要が出た場合には、武蔵野陽和会病院か、吉祥寺南病院に行くのだろうと考えているが、火災の状況でどちらを選べば良いのかとか、残った子どもはどうするのかとか、保護者にそれをどう伝えればいいのかとかいったこともあり、課題は山積していると感じている。

**【委員】**

いまは内部でそれを話し合っている状態か。

**【いずみの会】**

その段階である。あとは情報収集をしている。

**【委員】**

大規模な災害が出てから、復興に向けて、となった際に一時預かりはとてもニーズが出てくると思うが、施設としての役割はどう考えているか。

**【いずみの会】**

最近始まったママ部活でも、利用者自身の話し合いの中で、自助と共助についての意見も出ており、利用者からもすすくく泉で何をしてほしいかという声が上がってくるのではないと思う。施設でも多少の備蓄はしているが、利用者の声を聞きながら考えていきたい。

また不審者対応に関しては、警察への即時警報システムがないので、市にシステムの設置をしてもらえれば、という点は要望としてある。

**【委員】**

現在保育スタッフの資格取得が進んでいるということだが、小規模保育のA型を目指すという考えなのか。

**【いずみの会】**

もともと子育て中のスタッフが、ゆるく施設とつながって裾野が広がっていく、という点がこの施設の良さだと考えているが、A型を目指すところが消えてしまう。ゆくゆくはあるかもしれないが、いまの時点では、A型ということではなく、資格者を増やしながらか保育の質を高めていきたいと考えている。

**【副委員長】**

29年度の実績でも研修に力を入れていることが窺われたが、研修はただ出れば良いというだけのものではないと思うので、具体的にどのようなスキルアップにつながったのかを教えてほしい。特定の1名が研修を受講することが多いようだが、その人が園に帰ってそれをどのように広めているのか。また、父親の育児参加を促すプログラムやママ部活など、保護者参加や、保護者同士がつながる場の工夫がされていると感じるが、こうした取り組みを通じて、地域的にも人数的にも利用が広がっているのか。

**【いずみの会】**

研修については、まだ始めたばかりだが、28年度に較べると実績としてかなり増えており、まずは外部に目が向くようになったことが成果だと思う。研修に行った後は、そこで終わりではなく、報告書を提出し、それに基づいて、毎月のミーティングで学んだ内容のシェアもしている。お母さんたちが集まってできた施設という経緯もあるので、他を知らないスタッフが多かったが、ちょっと外に目を向けるだけで、新しいものを持ってくることができ、かなり効果は上がっていると感じている。

父親の講座については、そこで初めてすすく泉を利用するというパパが多く、こうした講座をきっかけに施設に入ってもらい、ということを目的としている。土曜日に父親だけで子どもを連れて来るといった利用も増えている。ママ部活については、いまは、既存の利用者で盛り上がっている状態だが、先日、市の防災課の職員に話をしてもらった際には、新しい利用者も数名いたかと思う。

**【委員】**

一時預かりについて、小学生の利用は少なかったかと思うが、現状ではどうか。

**【いずみの会】**

ほとんどないが、きょうだいで下の子と一緒に預かったり、特段の事情によって預かるということもある。これまで一番年長だったのは小学4年生である。

**【委員】**

昼間の利用だとスペースが限られるが、小学生の利用には問題ないのか。

**【いずみの会】**

これまで小学生の利用の多くは土曜日なので、保育スペースが空いており、そちらで過ごしてもらうなどしている。

**【委員】**

ママ部活ということで、防災の勉強をしているということだが、子どもの成長についてなど、他の園と一緒に保護者向けの勉強会をしたりもしているのか。

**【いずみの会】**

子どもの発達などについて、父親の会のイベントで、施設の保育士が講師になったことはあったが、他の園と一緒にということはない。施設のアドバイザーをしてきている先生に、今後、保護者向けの勉強会を開いてもらう予定はある。

**【委員長】**

課題として、スタッフ一人一人に合わせたスキルアップや研修内容の充実ということを挙げているが、30年度これに合わせた研修計画はあるのか。

**【いずみの会】**

誰がどういうことを勉強したいのかを、29年度は十分把握できていなかったという反省があるので、スタッフ一人一人にアンケートを取った。これから面接をしながら、各人の課題に合わせた研修計画を立てたいと考えている。

**【委員長】**

ここで質疑を終了します。いずみの会の方々はここでご退場ください。

**※NPO法人いずみの会が退場**

**<審議>**

**【委員長】**

それではいずみの会の説明、質疑等を踏まえて審議に入りたい。以前の委員会意見への対応、平成30年度の事業計画について、意見を伺いたい。まず、委員会意見への対応についてはどうか。

**【委員】**

かなり研修も充実してきて、計画的に行われていることは評価できる。一時預かりの予約キャンセル料の課題も解消していければ良いと思う。

**【委員】**

予定を空けて準備していたスタッフにいきなり来なくていいよ、というのも気の毒だ。

**【委員長】**

研修など全体的に計画的に事業が進められていることが評価できるということで良いか。

**【委員】**

研修は手上げ方式だと、好きなテーマしか行かない、ということもある。そのあたりは、面談で本人に必要な研修を選択することなので、良いと思う。

**【委員】**

希望の多いテーマであれば講師を施設に呼んでも良いのではないか。

**【委員長】**

委員会の意見としては「計画的に事業が実施され、委員会意見への対応が進んでいることを確認した」ということとしたい。次に、平成30年度の事業計画についてはどうか。

**【委員】**

ママ部活など、利用者参加や、保護者同士がつながる仕組みづくりを心掛けている点は評価できる。

**【委員】**

父親向けの講座などの企画でパパを引き出すなど工夫されている。

**【委員】**

質問しそびれてしまったが、相談業務の中での、関係機関との連携をどのように行っているのかは、あまり説明がなかったので気になった。ひろばだけでなく、小規模保育であっても保護者と関わると、子ども家庭支援センターにつなぐ必要があるケースも出てくると思う。

**【委員】**

連携しているとは言っていたので、ある程度は行っていると思うが。

**【委員】**

収支計算書の中で、ひろば事業・一時預かり事業に、全体の管理費の2分の1を配賦するとなっているが、実際の金額はそうになっていない。記載に誤りがあるのではないか。前回も話したが、2分の1という根拠がないので、正確に示した方が良い。

**【事務局】**

事務局で団体に確認をし、必要に応じて修正する。

(事務局追記:委員会後、誤りであることが判明したため、資料から同表記を削除した。資料3の1頁赤字部分参照。)

**【委員長】**

30年度事業計画についての委員会意見はどうするか。

**【委員】**

地域との連携が増えてきていると思うが、地域の人との付き合いにはとても時間を取られる。難しいところだが、このあたりの労力について、どうしていくのか。管理部門のスタッフにかなり負担がかかると思うので、法人としてのサポートを考えてもらいたい。

**【委員】**

担当分けではないが、ある程度見通しがあったほうが良い。地域で活動しているママたちとの連携を深めると書いてあったが、今年は何をするかなど、絞ったほうが良い。

**【委員】**

地域との関わり自体は進めてもらいたいので、それを継続的、安定的に行えるような体制を取ってもらいたい。

**【委員】**

利用する人にとって、いろいろやっていて大変そう、とならないように、見通し良くやってもらいたい。

**【委員長】**

ひとつ気になったのは、災害時の対応が課題山積ということで、これはいつ来るか分からないので、急いで色々な場面を想定して対策を立てる必要がある。

**【委員】**

市の保育施設全体で対策があるのではないか。

**【委員】**

研修等はある。連携園は認可保育園であるから、そのあたりのノウハウを聞くことはで

きるのではないか。内部だけでどうしよう、どうしよう、と考えている印象だ。

**【委員長】**

避難訓練についても、小規模保育施設への指導監査の指摘を見ると、不審者対応訓練が避難訓練に該当しないとの指導を受けたとある。ほかに児童票が未作成という指摘もあった。

**【委員】**

災害対策が、中長期目標に入っているが、これは早急にも実施してもらいたい。

**【委員】**

こういう委員会があるからかもしれないが、何十年もやっている施設よりも、よほどしっかりやっているのではないかと感じる。

**【委員長】**

だんだんステップアップしている。

**【委員】**

指摘事項にも真面目に対応していて素晴らしいと感じる。現場の一体感もある。

**【委員長】**

それでは事業計画に対しては、「平成 30 年度の事業計画については、地域や関係機関との連携、情報共有を図り、事業を進めてほしい。災害対策については早急に対策を考えてもらいたい。」という意見を付すこととしたい。

3 閉会